

# 2026年度のコロナワクチン注意事項のお知らせ

コロナワクチンが原因のコロナウィルスを攻撃しない免疫異常⇒コロナウィルスの体内で持続感染が進行⇒自己免疫疾患の発症ではないか？

2025年、信頼できる施設である米国エール大学発表と9月には日本の（旧陸軍病院跡）国立感染症研究所よりコロナワクチン2回以上接種者で免疫異常（IgG4増加）が発生していることが確認されています。IgG4増加とは攻撃性のない白血球ばかりになるということ。

これは新潟大学の安保医師流に言うと、この免疫力の低下は感染に弱くなるだけでなく、すでに感染している「ウィルスの再燃」が原因である自己免疫疾患の発症も意味します。ワクチン接種者の免疫力の低下は、自己免疫疾患を引き起こしやすい状態といえます。

自己免疫疾患の最も怖い部分は、それ自体では致命傷にならないことです。組織破壊と炎症が延々と続く厄介な病気です。そして、最大の問題点は、治療が『ステロイド』による炎症の鎮静にたよるだけとなることです。病気自体は治っていないのに治ったように見える。

ステロイドとは免疫を働かないようにする薬で、とても危険な副作用があります。『ステロイド』による治療は、血流がブロックされるので根本的には治らないことです。慢性的に使うことが非常に危険です。この点では消炎鎮痛剤も同じような結果をたどります。治す力を残すこととは、ステロイドの減量つまり落ちた免疫力を高めることこれ以上落とさないことです。

理由は「がん癌」リスクの恐怖です。癌は常にリンパ免疫に監視されて異常細胞の時点で処理されますが、ステロイド使用時点でリンパ免疫が低下するので異常細胞やがんの排除は行われません。免疫低下を引き起こすコロナワクチンはこれに追い打ちをかけてしまったといえるわけです。これを骨盤内の消化器叢など活性化して防いでいこうと考えています。

## 接種直後のガン化ではなく、これが恐怖のステロイドライン

### コロナワクチン⇒免疫低下⇒自己免疫疾患発症⇔ステロイド治療⇔癌の増殖

自己免疫疾患は、ステロイドで基本的に治る病気ではありません。現代医療ではステロイドをやめることはしないようです。ステロイドには癌になる危険が付きまといまいます。また癌になった場合の速度は、免疫が働いていないため信じられないほど早いものです。コロナワクチンを打った方は癌の危険性が高いわけです。当院の患者さんはそうだった。

それゆえに「今」自分の免疫力を高めておく必要があるわけです。まずは自己免疫疾患の閾値を超えさせずに発症させないように免疫力を高め、発症してしまったらステロイドの使用量を減らす免疫力の強化を必要とします。

院長の知り合いが間質性肺炎・入院1か月ステロイド治療になったということです。野球もやっていた健康な55歳の方なので、通常はあり得ない病気です。また、従弟が年末に血小板減少症で年明けにステロイド治療開始とのこと。院長の推奨施術を5000円という予算で受けていただけなかった患者さんが間質性肺炎からのガンで残念ながら今年R26年1月に亡くなられた方がおります。長いお付き合いだったのでとても悔しいです。

当院で行っている整体は、柔道整復の外傷性の整体術とは発祥を異にする【導引】という治療力＝気を扱う古来よりの整体術で、漢方医学ではがんの治療法です。また最近、量子力学により根拠が解明されたのでミトコンドリアの活性の交流磁気療法も扱っています。2026年は大いに皆様のお役に立ててください、是非お任せください。

免疫活性のノウハウを知らない素人判断では数年後の死亡リスクは非常に高まります。現実には推奨を受け入れていただけなかった方は約2年でなくなっており、心苦しい思いでいっぱいです。まったく元気という方には磁気療法でミトコンドリアの活性を、自己免疫疾患の家族がいる方には磁気や簡単な導引、自己免疫疾患でステロイドを使っている方には磁気と本格的な導引をお勧めします。

今回のお知らせは、数年後の生死につながりますのでかなり強く言います。院長

整体療院ふれあい

埼玉県さいたま市南区南浦和2-22-12 フィールビル1B

電話048-885-0350 予約制

ホームページ <http://www.douin.net/saitama/>

※整体技術には特許がなく論文を発表する学会もないため、治療ノウハウの権利は守られていないため企業秘で教えられません。